

2012年5月18日

横浜ゴム、国内外のタイヤテストコースで第一期植樹祭を開催

横浜ゴム（株）は3月10日（土）、タイのラヨーン県にある総合タイヤプルービンググラウンド、タイヤテストセンターオブアジア（Tire Test Center of Asia）で「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトの第一期植樹祭を開催した。また4月14日（土）、茨城県久慈郡にある総合タイヤプルービンググラウンド D-PARC でも同じく第一期植樹祭を開催した。

タイヤテストセンターオブアジアの植樹祭には藤河義明所長や従業員の他、日本から横浜ゴムグループの植樹活動全般を指導している宮脇昭氏（植物生態学者／横浜国立大学名誉教授）、川上欽也取締役常務執行役員 CSR 本部長が出席。タイに所在する横浜ゴムグループ各拠点の代表者も出席した。また、タイヤテストセンターオブアジアが所在するプルークデン町の行政関係者や地元関連企業、地域住民の方々などにもご参加いただき、参加総人数は322人となった。27種、計3,650本を植樹し、うち半分にあたる1,800本は従業員自ら育てた苗木を使用した。

D-PARC の植樹祭では山根賢司所長や従業員とその家族の他、宮脇氏、挟間浩久執行役員タイヤグローバル技術本部長などが参加し、総勢79人でシラカシやタブノキなど19種、計1,120本を植樹した。

横浜ゴムは2007年から、創業100周年の2017年までに国内外の全生産拠点に50万本植樹し杜を創生する「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトをスタートさせている。今回の2拠点の植樹により2012年4月までの植樹累計本数は約24万2,000本となった。



タイヤテストセンターオブアジアの第一期植樹祭参加者



D-PARCの第一期植樹祭で植樹する宮脇氏(左)と参加者

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：菊地
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570